

林業技術センター  
普及班便り  
(第3回目)

# 桐の復活を願う 林業普及班経営の豆知識 その2

## 一 はじめに

林業経営の改善や活性化を図るために、シイタケ等特用林産物を取り入れた複合経営を促進する必要があります。

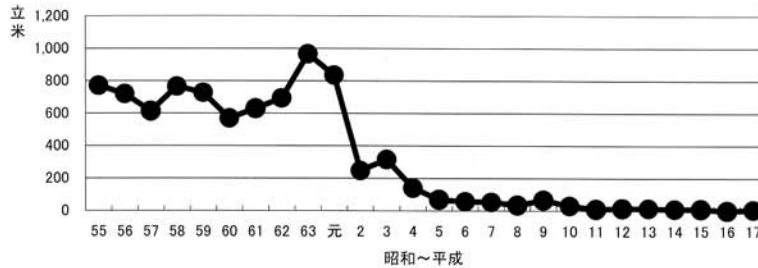
主な特用林産物としては、キノコ類、山菜、クリ、クルミ、キリ、ウルシ等ですが、この内キリは、県の花であり、本県は南部桐として、会津桐（福島県）、津南桐（新潟県）、秋田桐（秋田県）とともに国内の主要な桐産地として名が知られております。

## 二 桐材の生産量の現状

国内の桐の生産量は生活形態の変化やてんぐす病の被害などを要因として、昭和34年をピークに現在2%程度の生産量となっており、平成18年の全国桐材生産は1,502立米で対前年比14.5%減少しており、生産額でも対前年比14.9%減少しています。

また県内の桐材生産量は昭和63年には九百六十五立米ありましたが、平成2年以降急激に減少し、近年は

岩手県の桐材生産量(県特用林産物統計表より)



ほとんど生産されていません。(グラフ参照)

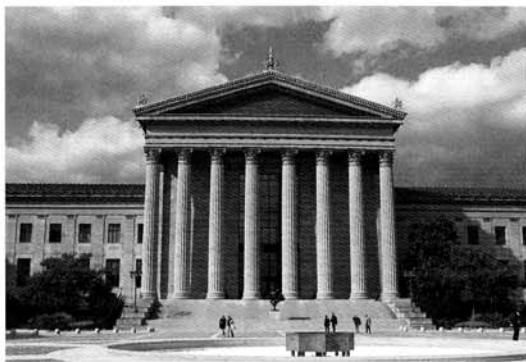
## 三 桐の流通における課題

平成18年度林野庁補助事業「文化財の維持等に必要の特用林産物供給支援事業」の一部として日本特用林

産振興会が取りまとめた調査報告によると、桐の流通における課題として、国産材と輸入材の差別化、地域ブランド確立の検討、新たな需要の創設、桐材業者の高齢化が挙げられています。

## 四 欧米での桐の位置づけ

北米では、現在、桐を主に鑑賞用樹として植栽しており、フィラデルフィア美術館の前庭の桐(写真参照)、フィラデルフィア市内のローガンサークル(公園)の桐などがあります。



フィラデルフィア美術館前庭の桐

ロヴァナに捧げるため彼女の名にちなんで名付けたといわれており、そのため欧米では桐に、プリンセスツリーという別名がついております。

## 五 桐の新たな需要の創設

県花である桐の新たな需要の可能性として、材利用に限定せずに、広く新たな需要を求めていく必要があるのではないのでしょうか。

たとえば、岩手県林業技術センターでは、植栽から1年程度で鉢植え状態で桐の花が開花している事例(成果速報No.120)があり、桐の花を活用した可能性に着目したいところです。

今後、林家が桐を取り入れた複合経営を実施するためにも南部桐の復活を願うものであります。

林業技術センター普及班



鉢植え状態で開花した桐

ちなみに、桐の学名の Paulownia (ポロニア) は、日本の植物誌を著したシーボルトが、彼に経済的援助をしたオランダ王妃アンナ・パヴ